

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第3807483号
(P3807483)

(45) 発行日 平成18年8月9日(2006.8.9)

(24) 登録日 平成18年5月26日(2006.5.26)

(51) Int. Cl.

F I

A 6 1 K 8/37 (2006.01)

A 6 1 Q 5/02 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

A 6 1 K 8/37

A 6 1 Q 5/02

A 6 1 Q 5/12

請求項の数 8 (全 10 頁)

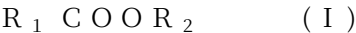
(21) 出願番号	特願2000-579179 (P2000-579179)	(73) 特許権者	391023932
(86) (22) 出願日	平成11年10月26日 (1999.10.26)		ロレアル
(65) 公表番号	特表2002-528478 (P2002-528478A)		フランス国パリ, リュ ロワイヤル 1 4
(43) 公表日	平成14年9月3日 (2002.9.3)	(74) 代理人	100109726
(86) 国際出願番号	PCT/FR1999/002601		弁理士 園田 吉隆
(87) 国際公開番号	W02000/025735	(74) 代理人	100101199
(87) 国際公開日	平成12年5月11日 (2000.5.11)		弁理士 小林 義教
審査請求日	平成13年5月2日 (2001.5.2)	(72) 発明者	ミュラー, ライナー
(31) 優先権主張番号	98/13865		ドイツ国 デー ー 7 6 3 4 4 レオポルド
(32) 優先日	平成10年11月4日 (1998.11.4)		シャッフエン, フィヒテンベルグ 2
(33) 優先権主張国	フランス (FR)	(72) 発明者	メイユル, ミリアム
前置審査			フランス国 エフ ー 9 4 2 4 0 ライ レ
			ローズ, パルク ドゥ ラ ビエーヴル
			1 7
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 洗浄用化粧品組成物及びその用途

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化粧品的に許容可能な水性媒体中に、(A)洗浄基剤と(B)次の式：



[上式中：

R₁ はtert-ブチル基を示し、R₂ は分枝状である12～26の炭素原子を有するアルキル基を示す]

の少なくとも1つの液状エステルを含有し、前記洗浄基剤が、組成物の全重量に対して、4重量%～50重量%の量で存在すると共に、アニオン性、両性、非イオン性界面活性剤とその混合物から選択される一又は複数の界面活性剤を含有していることを特徴とする毛髪のコディショニング及び洗浄用化粧品組成物。

10

【請求項 2】

R₂ がトリデシル、イソセチル、イソステアリル、オクチルドデシル及びイソアラキシル基から選択されることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項 3】

エステルが、組成物の全重量に対して0.1～20重量%の濃度で存在していることを特徴とする請求項1又は2に記載の組成物。

【請求項 4】

カチオン性界面活性剤、アニオン性又は非イオン性又はカチオン性又は両性ポリマー、タンパク質、セラミド類、擬似セラミド類及びシリコーン、植物性油、合成油、ヒドロキ

20

シ酸、ビタミン類、パンテノール及びそれらの混合物から選択される一又は複数のアジュバントを含有することを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項5】

カチオン性ポリマーが、第4級セルロースエーテル誘導体、ジアリルジメチルアンモニウム塩のホモポリマー、ジアリルジメチルアンモニウム塩とアクリルアミドのコポリマー、及びカチオン性多糖類から選択されることを特徴とする請求項4に記載の組成物。

【請求項6】

カチオン性ポリマーが、組成物の全重量に対して0.001～10重量%であることを特徴とする請求項4又は5に記載の組成物。

【請求項7】

請求項1ないし6のいずれか1項に記載の組成物からなる、頭髮のコンディショニング及び／又は洗浄のための製剤。

【請求項8】

毛髪を洗浄しコンディショニングする方法において、請求項1ないし6のいずれか1項に記載の組成物を有効量、湿った毛髪に適用し、任意の待ち時間後に水ですすぐことからなる方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

本発明は、化粧品的に許容可能な水性ビヒクルに、洗浄力を有する界面活性剤からなる洗浄基剤を含有し、コンディショナーとしてC₄-C₆カルボン酸とC₁₂-C₂₆アルコールとの少なくとも1つのエステルも存在する、毛髪等のケラチン物質のクレンジングとコンディショニングを両方行うことを意図した改善された特性を有する新規の化粧品組成物に関する。また、本発明は、上述した美容用途に前記組成物を使用することに関する。

【0002】

毛髪等のケラチン物質をクレンジング及び／又は洗浄するために、特にアニオン性、非イオン性及び／又は両性型、より詳細にはアニオン型の標準的な界面活性剤を本質的にベースとする洗浄用組成物(例えばシャンプー)が一般的に使用されている。これらの組成物は濡れた毛髪に適用されて、手で摩擦又はマッサージすることにより生じせしめられた泡が、水ですすいだ後に、毛髪に当初から存在していた様々な種類の汚れを除去する。

【0003】

これらのベース組成物は確かに良好な洗浄力を有するが、それらに備わっている本来の化粧品特性は、特にそのようなクレンジング処理の比較的烈しい性質が長期的には毛髪繊維に多かれ少なかれダメージを与えるおそれがあり、このダメージは該繊維の内部又は表面に含まれる脂質又はタンパク質が徐々に除去されることに特に関連していることから、かなり弱いまでである。

【0004】

よって、上述した毛髪の洗浄用組成物、特に、敏感化した毛髪(すなわち、特に、パーマメントウェーブ処理、染色又は脱色のような毛髪の処理、及び／又は大気中の成分の化学作用の結果、ダメージを受け又は弱化した毛髪)へ適用されるものの化粧品特性を改善するために、毛髪の繊維が、程度の差はあるが多かれ少なかれ繰り返し受ける様々な処理又は攻撃により誘発される有害な又は好ましくない影響を主として修復又は制限することを意図した、コンディショナーといわれている付加的な化粧品用薬剤をこれらの組成物に入れることが今は一般化している。もちろん、これらのコンディショナーは、またナチュラルな毛髪的美容特性を改善することができる。

【0005】

この目的のため、シリコーン、より詳細にはすすぎの間にケラチン物質に付着する不溶性のシリコーンを使用することが既に提案されている。しかしながら、シリコーンは、媒体中に均一に分散させ続けるのが困難であるといった欠点を有する。

また、コンディショナーとして、植物性又は動物性油等の油又は脂肪酸エステルを使用することも既に提案されている。しかしながら、従来の組成物には、満足のいく洗浄性及び

10

20

30

40

50

発泡性がなかった。さらにこれらの組成物で処理されたケラチン物質には、通常許容できない程の脂性感があった。

【0006】

本発明は、脂性感を付与することなく、十分な発泡性を有し、良好なコンディショニング特性、特にもつれのほぐれやすさ、柔軟性及び光沢を持つコンディショニング及び洗浄用組成物を提案するにより、上述した欠点を克服することを目的とする。

しかして、この問題について多くの研究を行ったところ、本出願人は、洗浄基剤と、4～6の炭素原子を有するカルボン酸と12～26の炭素原子を有するアルコールとの少なくとも1つの液状エステルを使用することにより、優れた機能性、例えば本来の良好な洗浄力及び良好な発泡力(泡の豊富さ、強さ及び起泡性)を有する、安定な洗浄用組成物が得られることを見出した。さらに組成物は、特にスタイリングの容易性、保持力、生き生きとした感じ、及び処理された毛髪のボリューム(body)等の良好な化粧品特性を有する。

本発明の組成物は、すすぎ後に、特にもつれのほぐれやすさに現われ、何ら脂性感をもたらしなないで、ボリューム感、軽さ、滑らかさ、柔軟性及びしなやかさをもたらす顕著なトリートメント効果を毛髪に付与する。

【0007】

よって、本発明の主題は、化粧品的に許容可能な水性媒体に、(A)洗浄基剤と(B)4～6の炭素原子を有するカルボン酸と12～26の炭素原子を有するアルコールとの少なくとも1つの液状エステルを含有することの特徴とする、新規な毛髪のコンディショニング及び洗浄用化粧品組成物にある。

さらに本発明の主題は、毛髪のコンディショニング及び／又はクレンジングのために上述の組成物を使用するという美容用途にある。

【0008】

A—洗浄基剤：

本発明の組成物は、一般に水性である洗浄基剤を必ず含有する。

洗浄基剤を形成する界面活性剤(類)は、アニオン性、両性、非イオン性及びカチオン性の界面活性剤から、単独で又は混合物として、無差別に選択することができる。

しかしながら、本発明における洗浄基剤は、好ましくは、アニオン性界面活性剤か、又はアニオン性界面活性剤と両性界面活性剤又は非イオン性界面活性剤の混合物を含有する。

【0009】

従って、本発明において洗浄基剤は、最終組成物の全重量に対して、4～50重量%、好ましくは6～35重量%、さらに好ましくは8～25重量%とすることができる。

【0010】

本発明の実施に適切な界面活性剤は、特に、以下のものである：

【0011】

(i)アニオン性界面活性剤(類)：

本発明の範囲内において、それらの性質は、真に臨界的な特徴ではない。

よって、本発明において、単独で又は混合物として使用可能なアニオン性界面活性剤の例として、特に(非限定的列举)、次の化合物：アルキルスルファート類、アルキルエーテルスルファート類、アルキルアミドエーテルスルファート類、アルキルアリールポリエーテルスルファート類、モノグリセリドスルファート類；アルキルスルホナート類、アルキルホスファート類、アルキルアミドスルホナート類、アルキルアリールスルホナート類、 α -オレフィンスルホナート類、パラフィンスルホナート類；アルキルスルホスクシナート類、アルキルエーテルスルホスクシナート類、アルキルアミドスルホスクシナート類；アルキルスルホスクシナート類；アルキルスルホアセタート類；アルキルエーテルホスファート類；アシルサルコシナート類；アシルイセチオナート類、アシルグルタマート類及びN-アシルタウラート類で；これら全ての種々の化合物のアルキル又はアシル基は、好ましくは12～20の炭素原子を有し、アリール基は、好ましくはフェニル又はベンジル基であるもの、の塩類(特にアルカリ金属塩、中でもナトリウム塩、アンモニウム塩、アミン塩、アミノアルコール塩又はマグネシウム塩)を挙げることができる。また、使用可

10

20

30

40

50

能なアニオン性界面活性剤として、脂肪酸塩、例えば、オレイン酸、リシノレイン酸、パルミチン酸及びステアリン酸、ヤシ油酸又は水素化ヤシ油酸の塩；及びアシル基が8～20の炭素原子を有するアシルラクチラート類を挙げることができる。さらに、弱いアニオン性界面活性剤、例えば、アルキル-D-ガラクトシドウロン酸及びそれらの塩、並びにポリオキシアルキレン化アルキル(C₆-C₂₄)エーテルカルボン酸、ポリオキシアルキレン化アルキル(C₆-C₂₄)アリアルエーテルカルボン酸、ポリオキシアルキレン化アルキル(C₆-C₂₄)アミドエーテルカルボン酸及びそれらの塩、特に2～50のエチレンオキシド基を含有するもの、及びそれらの混合物を使用することもできる。

本発明のアニオン性界面活性剤として、好ましくは、アルキルスルファート及びアルキルエーテルスルファートの塩、及びそれらの混合物が使用される。

10

【0012】

(i i) 非イオン性界面活性剤(類)：

非イオン性界面活性剤は、それ自体よく知られている化合物〔これに関して、特にブラック・アンド・サン(Blackie & Son)社(グラスゴー及びロンドン)から出版されているエム・アール・ポーター(M.R. Porter)の「界面活性剤ハンドブック(Handbook of Surfactants)」(1991年、116-178頁)を参照〕であり、本発明においては、それらの性質は臨界的な特徴ではない。しかして、それらは、特に(非限定的列举)、ポリエトキシ化、ポリプロポキシ化又はポリグリセロール化された脂肪酸、アルキルフェノール類、α-ジオール類又はアルコール類で、例えば8～18の炭素原子を含有する脂肪鎖を有するもの、特に、エチレンオキシド又はプロピレンオキシド基の数が2～50の範囲内、グリセロール基の数が2～30の範囲内とできるものから選択することができる。また、エチレンオキシドとプロピレンオキシドのコポリマー、脂肪アルコールとプロピレンオキシド及びエチレンオキシドの縮合物；好ましくは2～30モルのエチレンオキシドを有するポリエトキシ化脂肪アミド類、平均1～5、特に1.5～4のグリセロール基を有するポリグリセロール化脂肪アミド類；好ましくは2～30モルのエチレンオキシドを有するポリエトキシ化脂肪アミン類；2～30モルのエチレンオキシドを有するオキシエチレン化ソルビタン脂肪酸エステル類；スクロースの脂肪酸エステル類、ポリエチレングリコールの脂肪酸エステル類、アルキルポリグリコシド類、N-アルキルグルカミン誘導体、アミノオキシド類、例えば(C₁₀-C₁₄)アルキルアミノオキシド類又はN-アシルアミノプロピルモルホリンオキシド類を挙げることができる。アルキルポリグリコシド類が、本発明の範囲内において、特に適切な非イオン性界面活性剤を構成することを特筆しておく。

20

30

【0013】

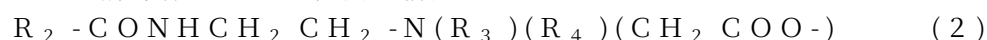
(i i i) 両性界面活性剤(類)：

本発明において、両性界面活性剤の性質は重要な特徴ではなく、特に(非限定的列举)、脂肪族基が8～22の炭素原子を有する直鎖状又は分枝状鎖であり、少なくとも1つの水溶性のアニオン性基(例えば、カルボキシラート、スルホナート、スルファート、ホスファート又はホスホナート)を含有する、脂肪族の第2級又は第3級アミン誘導体であってよく；さらに、(C₈-C₂₀)アルキルベタイン類、スルホベタイン類、(C₈-C₂₀)アルキルアミド(C₁-C₆)アルキルベタイン類又は(C₈-C₂₀)アルキルアミド(C₁-C₆)アルキルスルホベタイン類を挙げることができる。

40

【0014】

アミン誘導体としては、次の構造：



〔上式中、R₂は、加水分解されたヤシ油中に存在する酸R₂-COOHから誘導されるアルキル基、ヘプチル、ノニル又はウンデシル基を示し、R₃は、β-ヒドロキシエチル基を示し、R₄はカルボキシメチル基である〕；及び



〔上式中、Bは、-CH₂CH₂OX'を示し、Cは、Z=1又は2である-(CH₂)_Z-Y'を示し、

X'は、-CH₂CH₂-COOH基、又は水素原子を示し、

50

Y'は、-COOH、又は-CH₂-CHOH-SO₃H基を示し、

R₂は、ヤシ油又は加水分解されたアマニ油中に存在する酸R₉-COOHのアルキル基、アルキル基、特にC₇、C₉、C₁₁又はC₁₃アルキル基、C₁₇アルキル基とそのイソ形、又は不飽和のC₁₇基を示す]；

で表される、米国特許第2528378号及び米国特許第2781354号に記載され、ミラノール(Miranol)(登録商標)の名称で販売されている製品を挙げることができる。

【0015】

これらの化合物は、CTFA辞典(第5版、1993年)に、ココアンホ二酢酸二ナトリウム(Di sodium Cocoamphodiacetate)、ラウロアンホ二酢酸二ナトリウム(Disodium Lauroamphodiacetate)、カプリルアンホ二酢酸二ナトリウム(Disodium Caprylamphodiacetate)、カプ
10
リロアンホ二酢酸二ナトリウム(Disodium Capryloamphodiacetate)、ココアンホジプロピオン酸二ナトリウム(Disodium Cocoamphodipropionate)、ラウロアンホジプロピオン酸二ナトリウム(Disodium Lauroamphodipropionate)、カプリルアンホジプロピオン酸二ナトリウム(Disodium Caprylamphodipropionate)、カプリロアンホジプロピオン酸二ナトリウム(Disodium Capryloamphodipropionate)、ラウロアンホジプロピオン酸、ココアンホジプロピオン酸の名称で分類されている。

例えば、ローディア・シミー社(Rhodia Chimie)からミラノール(登録商標)C2M濃縮物の商品名で販売されているココアンホ二酢酸塩を挙げることができる。

【0016】

本発明の組成物においては、界面活性剤の混合物、特にアニオン性界面活性剤と両性又は
20
非イオン性界面活性剤との混合物が好ましく使用される。特に好ましい混合物は、少なくとも1つのアニオン性界面活性剤と少なくとも1つの両性界面活性剤からなる混合物である。

好ましくは、(C₁₂-C₁₄)アルキル硫酸アンモニウム、トリエタノールアミン又はナトリウム、2.2モルのエチレンオキシドでオキシエチレン化された(C₁₂-C₁₄)アルキルエーテル硫酸ナトリウム、ココイルイセチオン酸ナトリウム及びアルファ-(C₁₄-C₁₆)オレフィンスルホン酸ナトリウム、及びそれらの混合物から選択されるアニオン性界面活性剤と；

— 両性界面活性剤、例えば、特に、38%の活性物質を含有する水溶液として「ミラノール(登録商標)C2M・CONC」の商品名で、又は「ミラノール(登録商標)C32」の
30
名称で、ローディア・シミー社から販売されているココアンホジプロピオン酸二ナトリウム又はココアンホプロピオン酸ナトリウムとして知られているアミン誘導体か；

— 又は双性イオン型の両性界面活性剤、例えばアルキルベタイン類、特に、ヘンケル(Henkel)社から、32%の活性物質を含有する水溶液として「デハイトン(Dehyton)(登録商標)AB30」の名称で販売されているココイルベタイン、又はアルキルアミドアルキルベタイン類、例えばゴールドシュミット(Goldschmidt)社から販売されている「テゴベタイン(Tegobetaine)(登録商標)F50」；

のいずれかとのその混合物が使用される。

【0017】

(iv)カチオン性界面活性剤類：

カチオン性界面活性剤として、特に(非限定的列举)、ポリオキシアルキレン化されていてもよい、第1級、第2級又は第3級脂肪アミンの塩類；第4級アンモニウム塩、例えばテトラアルキルアンモニウム、アルキルアミドアルキルトリアルキルアンモニウム、トリアルキルベンジルアンモニウム、トリアルキルヒドロキシアルキルアンモニウム又はアルキルピリジニウムクロリド又はブロミド；イミダゾリン誘導体；又はカチオン性のアミノキシドを挙げることができる。

カチオン性界面活性剤は使用できるが、本発明を実施するための好ましい界面活性剤を構成するものではないことを特筆しておく。

【0018】

B—液状エステル類

10

20

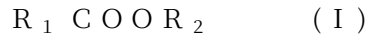
30

40

50

本発明の組成物は、4～6の炭素原子を有するカルボン酸と12～26の炭素原子を有するアルコールとの少なくとも1つの液状エステルを必ず含有する。これらのエステルは、25℃、0.1%を越える濃度で水に不溶である。それらは、30℃以下の雰囲気温度では液体である。

本発明の液状エステル類は、好ましくは次の式：



[上式中：

R_1 は直鎖状又は分枝状で、モノ-又はポリヒドロキシル化されていてもよい、3～5の炭素原子を有する炭化水素ベース基を示し、

R_2 は直鎖状又は分枝状で、モノ-又はポリヒドロキシル化されていてもよい、12～26、好ましくは16～22の炭素原子を有する炭化水素ベース基を示し、

R_1 は好ましくは、3～5の炭素原子を有する分枝状のアルキル基、特にtert-ブチル基を示し、

R_2 は好ましくは、特に分枝状で、更に詳細にはトリデシル、イソセチル、イソステアリル、オクチルドデシル及びイソアラキジル基から選択される、12～26の炭素原子を有する飽和又は不飽和のアルキル基を示す]

のものである。

特に好ましい液状エステル類は、ネオペンタン酸イソステアリル(R_1 = tert-ブチルで R_2 = イソステアリルである式(I)のもの)、ネオペンタン酸トリデシル、ネオペンタン酸イソセチル及びネオペンタン酸イソアラキジルである。

上述した液状エステル(類)は、組成物の全重量に対して一般的に0.1～20重量%、好ましくは0.2～10重量%、特に0.5～5重量%の濃度で、本発明の組成物に使用されうる。

【0019】

化粧品的に許容可能な水性媒体は、水のみからなるか、水と化粧品的に許容可能な溶媒、例えば $C_1 - C_4$ 低級アルコール、例えばエタノール、イソプロパノール、tert-ブタノール又はn-ブタノール；アルキレングリコール類、例えばプロピレングリコール、及びグリコールエーテル類の混合物からなる。

【0020】

本発明の洗浄用組成物は、一般的に、3～10の最終的なpHを有する。好ましくは、このpHは5～8である。pHは、従来通り、組成物に塩基(有機又は無機)、例えばアンモニア水、又は第1級、第2級又は第3級(ポリ)アミン、例えばモノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、イソプロパノールアミン又は1,3-プロパンジアミンを添加するか、又は無機又は有機酸、好ましくはカルボン酸、例えばクエン酸を添加することによって所望の値に調節することができる。

【0021】

本発明の組成物は、上述した組合せに加えて、粘度調節剤、例えば電解質、又は増粘剤を含有することもできる。特に、塩化ナトリウム、キシレンスルホン酸ナトリウム、スクレログルカン、キサントガム、脂肪酸アルカノールアミド、5モルまでのエチレンオキシドでオキシエチレン化されていてもよいアルキルエーテルカルボン酸アルカノールアミド、例えばケム・ワイ(Chem Y)社から「アミノール(Aminol)A15」の名称で販売されている製品、架橋したポリアクリル酸と架橋したアクリル酸／アクリル酸 $C_{10} - C_{30}$ アルキルのコポリマーを挙げることができる。これらの粘度調節剤は、組成物の全重量に対して10重量%までの割合で、本発明の組成物に使用されうる。

【0022】

また、本発明の組成物は、従来からよく知られている真珠光沢剤又は不透明化剤、例えば C_{16} 以上の脂肪アルコール類、パルミチン酸ナトリウム又はマグネシウム、ステアリン酸ナトリウム又はマグネシウムもしくはヒドロキシステアリン酸ナトリウム又はマグネシウム、脂肪鎖アシル誘導体、例えばエチレングリコール又はポリエチレングリコールのモノステアラート又はジステアラート、及び脂肪鎖エーテル類、例えばジステアリルエーテ

10

20

30

40

50

ル又は1-(ヘキサデシルオキシ)-2-オクタデカノールを、5%までさらに含有することができる。

【0023】

さらに、本発明の組成物は、組成物の安定性を損なうことなく、毛髪又は皮膚の美容特性を改善する効果を有する他の薬剤を含有していてもよい。この点では、カチオン性界面活性剤、アニオン性、非イオン性、カチオン性又は両性ポリマー、タンパク質、タンパク質加水分解物、セラミド類、擬似セラミド類、直鎖状又は分枝状の $C_{16}-C_{40}$ 鎖を有する脂肪酸、例えば18-メチルエイコサン酸、ヒドロキシ酸、ビタミン類、パンテノール、媒体に可溶又は不溶の揮発性又は非揮発性のシリコン、及び植物性油及び合成油、及びそれらの混合物を挙げることができる。

10

【0024】

本発明で使用可能なカチオン性ポリマーのコンディショナーは、洗浄用組成物で処理される毛髪の美容特性を改善するものとして、既にそれ自体公知のもの全て、すなわち特に、欧州特許出願公開第0337354号、及び仏国特許出願公開第2270846号、同2383660号、同2598611号、同2470596号及び同2519863号に開示されているものから選択することができる。

さらに一般的には、本発明の目的において、「カチオン性ポリマー」という表現は、カチオン基及び／又はカチオン基にイオン化され得る基を含有する任意のポリマーを示す。

【0025】

本発明で使用可能な全てのカチオン性ポリマーのなかでも、第4級セルロースエーテル誘導体、例えば、ユニオン・カーバイド社(Union Carbide Corporation)から「JR400」の名称で販売されている製品、シクロポリマー類、特に、メルク(Merck)社から「メルクアット(Merquat)100」、「メルクアット550」及び「メルクアットS」の名称で販売されている、ジアリルジメチルアンモニウム塩(特にクロリド)のホモポリマー及びジアリルジメチルアンモニウム塩(特にクロリド)とアクリルアミドのコポリマー、及びカチオン性多糖類、特に、メイホール(Meyhall)社から「ジャガー(Jaguar)C13S」の名称で販売されている、2,3-エポキシプロピルトリメチルアンモニウムクロリドで変性したグアーガムが好ましく使用される。

20

【0026】

本発明において、カチオン性ポリマー(類)は、最終組成物の全重量に対して0.001～10重量%、好ましくは0.005～5重量%、さらに好ましくは0.01～3重量%である。

30

【0027】

また本発明の組成物は、発泡相乗剤(foam synergists)、例えば $C_{10}-C_{18}$ 1,2-アルカンジオール又はモノ-もしくはジエタノールアミン類から誘導された脂肪アルカノールアミドを含有してもよい。

【0028】

言うまでもなく、当業者であれば、考慮される添加により、本発明の組合せ(洗浄基剤+本発明のエステル類)による固有の有利な特性が、実質的に又は全く損なわれることのないように留意して、これら任意の補足的な化合物及び／又はその量を選択するであろう。

40

【0029】

これらの組成物は、多かれ少なかれ増粘した液体、クリーム又はゲルの形態であってよく、毛髪の洗浄及び手入れに主に適したものである。

本発明の組成物が、標準的なシャンプーとして使用される場合、それらを、単に濡れた毛髪に適用し、ついで、手による摩擦又はマッサージにより生じせしめた泡を、場合によっては所定時間毛髪上に放置した後、水ですすいで除去し、この工程を一度又は数回繰り返すことができる。

【0030】

また、本発明の主題は、上述した組成物を、有効量、濡れたケラチン物質に適用し、場合によっては所定時間を該物質上に組成物を放置した後に水ですすぐことからなる、該物質

50

のコンディショニング及び洗浄方法にある

【0031】

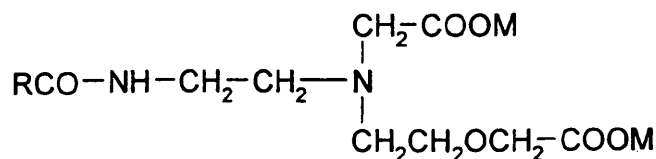
以下の実施例は、本発明を例証するためのものであって、本発明を限定するものではない。

実施例 1

一つは本発明品(組成物 A)で、他方は比較品(組成物 B)である 2 つのシャンプー組成物を調製した：

	<u>A</u> 本発明品	<u>B</u> 比較品
ー 2. 2モルのエチレンオキシドを含有するラ ウリルエーテル硫酸ナトリウム(70/30 C12/C14) (70%のAMを含有する水溶液) (AM=活性物質)	12.6gAM	12.6gAM
ー ココアンホ二酢酸二ナトリウム (ミラノールC2M conc. NP(*)) (38%のAMを含有する水溶液)	2.7gAM	2.7gAM
ー ネオペンタン酸イソステアリル	1g	—
ー カチオン性セルロースガム (ユニオン・カーバイド社のポリマーJR400)	0.2g	0.2g
ー エチレングリコールジステアラート	1.5g	1.5g
ー NaCl	1.1g	1.1g
ー セテアリール硫酸ナトリウム(90%AM)	0.7gAM	0.7gAM
ー ヤシ酸モノイソプロパノールアミド	1.5g	1.5g
ー 香料・防腐剤	適量	適量
ー クエン酸	0.6g	0.6g
ー 脱塩水	計100g	計100g

(*) ローディア・シミー社から販売されているミラノールC2M conc.



[上式中、RはヤシベースのC₈-C₁₈アルキル基を示し、
MはNaを示す]

【0032】

予め濡らしておいた敏感化した毛髪に、約12gの組成物Aを適用して洗髪を行った。泡を立てて洗髪し、ついで水で十分に洗い流した。

上述と同様の手順を、比較品である組成物Bについても行った。

専門家のパネラーが、2つの組成物の発泡性及び化粧品特性を評価した。

専門家は、本発明の組成物Aの方が泡立ち始めが非常に容易で、より気泡を含んだ軽い感じの泡になると評した。

組成物Aで処理された湿った毛髪はより容易にもつれがほぐれ、より柔軟であった。乾燥した毛髪はより滑らかでボリュームがあり、扱いやすかった。

【0033】

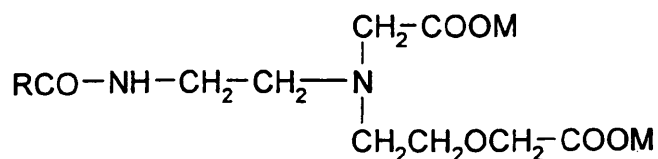
実施例 2

本発明のシャンプー組成物を調製した：

ー 2. 2モルのエチレンオキシドを含有するラ ウリルエーテル硫酸ナトリウム(70/30 C12/C14)		
(70%のAMを含有する水溶液)	12.6gAM	
(AM=活性物質)		
ー ココアンホ二酢酸二ナトリウム		
(ミラノールC2M conc. NP(*))		
(38%のAMを含有する水溶液)	2.7gAM	
ー ネオペンタン酸トリデシル	1.5g	
ー カチオン性セルロースガム		
(ユニオン・カーバイド社のポリマーJR400)	0.2g	
ー エチレングリコールジステアレート	1.5g	
ー セテアリール硫酸ナトリウム(90%AM)	0.7gAM	
ー ヤシ酸モノイソプロパノールアミド	4g	
ー 香料・防腐剤	適量	
ー NaOH	0.1g	
ー クエン酸	0.55g	
ー 脱塩水	計100g	

10

(*)ローディア・シミー社から販売されているミラノールC2M conc.



20

[上式中、RはヤシベースのC₈-C₁₈アルキル基を示し、
MはNaを示す]

【0034】

予め濡らしておいた敏感化した毛髪に、約12gの組成物Aを適用して洗髪を行った。泡を立てて洗髪し、ついで水で十分に洗い流した。

泡立ち始めが非常に容易で、より気泡を含んだ軽い感じの泡になった。

組成物で処理された湿った毛髪はより容易にもつれがほぐれ、より柔軟であった。乾燥した毛髪はより滑らかでボリュームがあり、扱いやすかった。

30

フロントページの続き

審査官 岩下 直人

- (56)参考文献 特開昭58-079923 (JP, A)
特開平06-009334 (JP, A)
特開平08-175933 (JP, A)
特開平07-291851 (JP, A)
特開平09-165314 (JP, A)
特開平09-110649 (JP, A)
特開平09-078086 (JP, A)
特開平08-157341 (JP, A)
特開平06-192041 (JP, A)
特開昭62-226919 (JP, A)
特開昭56-095108 (JP, A)
米国特許第5437860 (US, A)
特表2000-505108 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61K 8/37

A61Q 5/02

A61Q 5/12